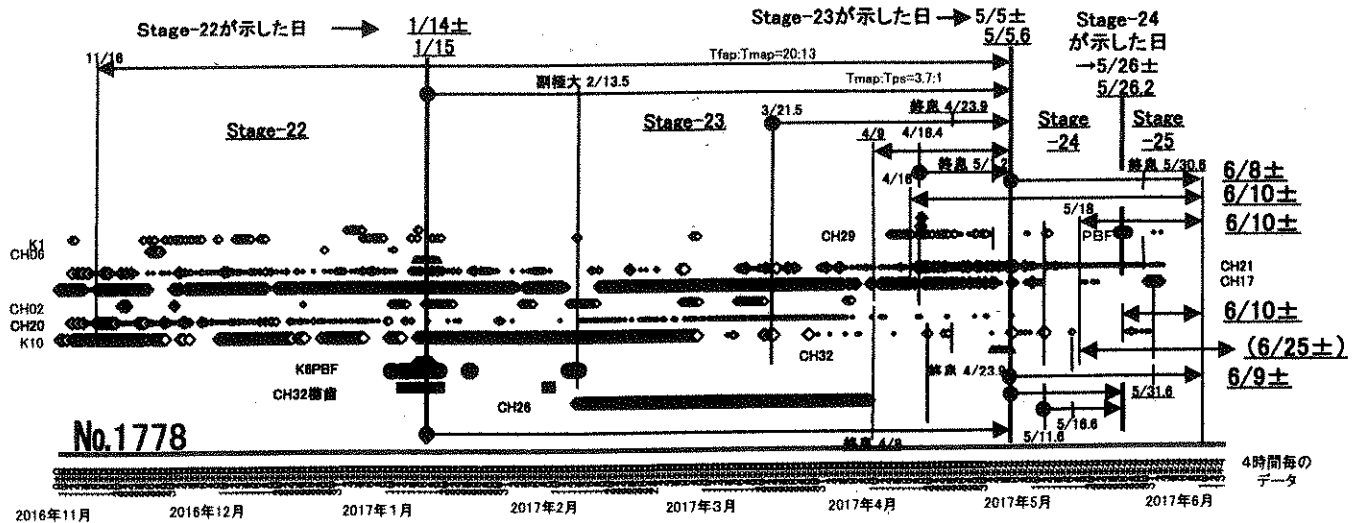
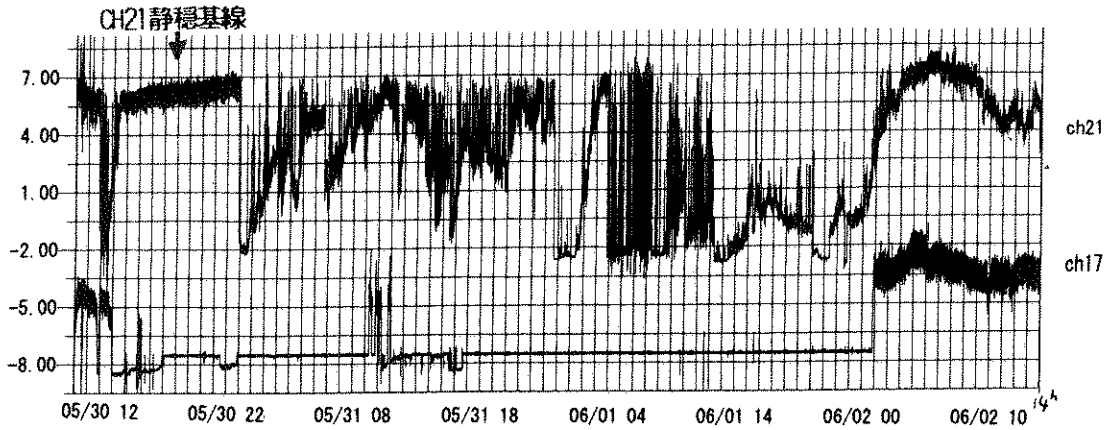


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 CH17に極大 CH21のみ継続中 6/10±を示す可能性

右波形上=CH21 下=CH17。5/30昼頃より約10時間程CH21は正常基線を記録。CH17は5/30昼~6/2 01時迄の期間、糸状特異。Taa期間の過去例比率からは、極大中心=5/31.6 特異状態中心=6/1.0 いずれにしても極大認識。CH21の5/30昼頃の静穏化を5/5.6極大に対する静穏化5/30.6として計算しますと、6/8 ±を示します。



前情報で5/26.2中心にハヶ岳のCH29に周期的連続BF (PBF) が出現したことを報告致しました。その後、CH21の特異状態前兆のみとなっていました。上波形のとおり、5/30昼よりハヶ岳のCH17に糸状特異前兆が出現し、本日 6/2の01時まで継続し、正常基線に復帰致しました。極大認識です。

CH17極大は、上波形左記したとおり、5/31.6又は6/1.0 と認識されます。CH21も5/30深夜から特異状態となりましたが、本日未明から特異状態が弱くなっています。現在出現継続前兆は相変わらずCH21のみです。上前兆出現状況図に書き込んだ前兆関係が仮に正しい場合は、6/10±2(6/9±1)の可能性有。

下は、最終認識極大が5/31.6の場合の現状考え易い前兆終息時期と、各終息時期に対する地震発生時期の試算です。極大が6/1.0 の場合でも2-3時間しか変わりません。断続的にCH29に特異が短時間認められますが、CH21と共に(今後更に極大が出現しなければ)左時期のいずれかに静穏化するが注目です。静穏化確認後発生日を計算。

前兆終息	推定発生
6/6.4の場合	⇒6/8.4
6/7.1の場合	⇒6/9.4
6/7.9の場合	⇒6/10.4
6/8.6の場合	⇒6/11.4

- ◆推定領域：下図 点線領域=大枠 太線領域内=可能性高い
※ある程度火山に近い領域の可能性有
(※影響局誤認の場合は福島付近となるが下図領域が考え易い)
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5 (震源浅い陸域日本列島地殻地震)
- ◆推定時期：実際の前兆終息を観測後計算予定
現状考え易い可能性：6月10日±2 (or 6月9日±1)
※左下枠内時期前に静穏化の場合及び 6/9前兆継続の場合は再考
◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (又は午後6時±3時間)

